

ISO/TC 8(船舶及び海洋技術専門委員会)直属のWG担当分

議長:Mr. Yanqing Li(中国)、幹事国(中国)

担当	規格番号	標題	標題(邦訳)	概要	制定等年月日	JIS化の状況
TC8	ISO/DIS 3725	Ships and marine technology — Aquatic nuisance species — Methods for evaluating the performance of compliance monitoring devices for ballast water discharges	船舶及び海洋技術—バラスト水のサンプリング-遵守監視装置の遵守監視装置の性能評価手法	<p>バラスト水管理条約が定める排出基準を遵守していることを判断するために、バラスト水の船上排出を迅速に評価するように設計されたコンプライアンスモニタリング装置に適用できるプロトコルについて取り纏めている。コンプライアンスモニタリング装置は、バラスト水管理(BWM)条約で定義されている1つまたはそれ以上の生物または生物サイズ部類を対象とする場合がある。</p> <p>IMO/PPR (汚染・防止対応) 小委員会傘下のCG (通信部会) において、2022年6月1日の発効に向けて審議されてきた、「REVISED PROPOSED PROTOCOL FOR THE VERIFICATION OF BALLAST WATER COMPLIANCE MONITORING DEVICES」に先立って規格を制定させることを目標として、WG 12で審議が行われてきた。しかしながら、同プロトコル案の審議スケジュールが後ろ倒しになったため、WG 12会議においては、通常スケジュールで審議を進めることとなった。</p> <p>一方、ISOにおける所定の開発期限を超過しない範囲で、規格を開発する必要性が認識され、6月1日-2日に開催されたWG 12ウェブ会議において、DIS原稿の最終見直しが行われた。現在、ISO/TC 8事務局とISO/CS(中央事務局)の間で、DIS投票開始のための手続きを行っている。</p>	CD省略投票 終了 2021.11.14 DIS投票準備中	—
TC8 SC6から移行	ISO/CD 4891	Ships and marine technology — Navigation and ship operations — Smart logbooks for shipping	船舶及び海洋技術—航海及び操船—船舶用スマートログブック	<p>この規格は、スマートログブックの操作上の必要要件及び性能要件を取り纏めたもの【ドイツ主導】。この規格で定めるスマートログブックは、人間(ヒューマンマシンインターフェイス/スマートフォン)、IOT/センサー、及び第三者システムを通じて、書類提出、プロセス管理、接続、及びデータ収集に適用でき、ISO 21745「電子ログブック—技術仕様及び操作上の必要要件」(パナマが主導の形をとりつつ、実質日本が作成したISO規格)を補足する規格でもあるとしている。</p> <p>2020年9月開催のISO/TC8/SC6/WG18会議での審議の結果、この提案でのスマートログブックとは、モバイル又は固定機器(データサーバー)で電子ログブックデータと双方向でデータのやり取りができるほか、船内機器からも情報収集が可能で(機器→スマートログブックの一方)、収集したデータを船橋又は陸上に取組みであることが分かった。</p> <p>2021年9月14日の国際会議の結果、TC8/SC6からTC8へ移管することになり、TC8およびTC8/SC6において、2021年11月9日を締切とした移管に向けた投票が実施され、TC8への移管が承認された。</p>	CD省略投票承認 2022.04.26	—
TC 8	ISO/AWI 7613	Ships and marine technology - Hopper Dredger- Trailing suction tube position monitoring system	船舶及び海洋技術—ドラッグサクシオン浚渫船用トレーリングサクシオンチューブの位置監視システム	本規格は、ドラッグサクシオン浚渫船用トレーリングサクシオンチューブ位置監視システムの設計、製造、変更および承認に適用するための設置要件、インタフェース要件、技術要件、試験方法などを取り纏めたもの【中国主導】。	2021.07.21 AWI登録	—
TC 8	ISO/AWI 8933-1	Ships and marine technology — Energy efficiency — Part 1: Energy efficiency of individual maritime components	船舶及び海洋技術—エネルギー効率—第1部:個々の船用部品のエネルギー効率	<p>本規格は、個々の船用部品のエネルギー効率を評価するための一般的な測定及び計算方法について取り纏めたもの【デンマーク主導】。</p> <p>現在は、WDの骨子を固めるため、定期的にウェブ会議が開催されている(初回:12月7日、第2回:2月22日、第3回:3月30日、第4回:4月28日、第5回:6月9日)。</p> <p>初回～第4回のWG会議における審議では、ISO 8933-2を優先して審議が行われていたが、第5回のWG会議において、今後の方向性が提案された。WGは、素案の作成に先立ち、船上に搭載されている船用部品のうち、エネルギーの消費に特に影響するものをリスト化し、簡潔な情報を網羅した規格とすることで合意した。次回のWG会議は、8月23日に開催される予定。なお、10月末-11月頭のCD投票の開始を目標としている。</p>	2021.10.20 AWI登録	—

TC 8	ISO/AWI 8933-2	Ships and marine technology — Energy efficiency — Part 2: Energy efficiency of maritime functional units	船舶及び海洋技術—エネルギー効率—第2部:個々の船用部品の機能ユニットのエネルギー効率	本規格は、機能ユニットと呼ばれるシステムに接続された複数の部品のエネルギー効率を評価するための一般的な測定及び計算方法について取り纏めたもの【デンマーク主導】。 現在は、WDの骨子を固めるため、定期的にウェブ会議が開催されている。(初回:12月7日、第2回:2月22日、第3回:3月30日、第4回:4月28日、第5回:6月9日)。 ISO 8933-1に先立ち、第2回～第5回会議に掛けて、集中的に審議を行った。この審議の結果、機能ユニットを、圧力及び流量ユニット、照明ユニット、暖房・冷房ユニット、機械ユニット、及び推進ユニットの5つのカテゴリーに分けることとなった。さらに、上記のカテゴリーに属するシステムを列挙し、各システムのエネルギー効率の測定及び計算手法の規定に関する審議を行った。本規格案については、WGコンビーナ(デンマーク)が俯瞰的に規格案全体を見直したうえで、各項目の規定内容を整合させることとなった。コンビーナの検討結果は、8月23日に開催される次回WGIにて審議される予定。ISO 8933-1と同じく、10月末-11月頭のCD投票の開始を目標としている。	2021.10.20 AWI登録	—
TC8	ISO 11711-1:2019	Ships and marine technology -- Aquatic Nuisance Species -- Part 1: Ballast water discharge sample port	船舶及び海洋技術—水棲有害生物種—第1部:バラスト水排出サンプリング装置	本規格は、バラスト水を排水する前に排水パイプから代表サンプルを得るために要求されるサンプルポートの設計および搭載に関する指針を取り纏めている。	2019.05	—
TC8	ISO/FDIS 11711-2	Ships and marine technology -- Ballast water sampling and analysis - - Part 2: Ballast water sample collection and handling	船舶及び海洋技術—バラスト水サンプリング及び分析—第2部:バラスト水サンプルの収集及び取扱い	船上におけるバラスト水のサンプル収集及び加工に必要となるサンプリング装置の選定及び使用に関するガイダンス。サンプルプローブ、代表的なサンプリングの制約を満足するための制御能力を有するサンプル収集装置の設計に関する規定も含む。 2020年5月25日を投票期限として実施された、本ISO規格のCD段階を省略するための投票は特段の反対なく承認された。この投票で提出された各国の意見は、2020年8月31日～9月4日に開催されたWG12ウェブ会議で審議された。この後、同ウェブ会議の審議結果に基づいた原案が作成され、2021年2月14日を回答期限としたDIS投票が実施された。この投票の結果、特段の反対なく承認された。日本は、編集的意見を提出のうえ、「賛成(意見付き)」回答を実施した。 これらの投票の後、ISO/TC 8/WG 12のエキスパート間において審議が行われ、FDIS投票に進むことが合意された。現在、8月24日を回答期限として、FDIS投票が行われている。	FDIS投票実施中 2022.06.29～ 2022.08.24	—
TC8	ISO/AWI 11711-3	Ships and marine technology -- Aquatic nuisance species -- Part 3: Analyses of ballast water samples	船舶及び海洋技術—水棲有害生物種—第3部:バラスト水サンプルの分析	ISO11711-1及び-2の手順において採取されたバラスト水サンプルを分析し、バラスト水排出基準(D-2基準)への遵守を判断するための手法を取り纏めている。 2020年10月から2021年1月にかけてNP投票が行われ、TC8/WG12の新規作業項目として承認された(日本は賛成)。 新規作業項目として承認された後、しばらく進捗が確認されていなかったが、7月6日-7日に開催されたTC 8/WG 12ウェブ会議において、原案の審議が行われた。ここで、開発期限が迫っていることもあり、CD投票を省略する手続きの実施が提案されたが、原案が十分に議論されていないことから、9月にWG 12会議を再度開催し、判断することとなった。	NP投票承認 2021.01.13 CD投票に向けて 原案審議中	—
TC8 SC11から移行	ISO 15849:2001	Ships and marine technology -- Guidelines for implementation of a fleet management system network	船舶及び海洋技術—フリートマネジメントシステムネットワークの実施のための指針	船主及びフリートマネジメントシステム(FMS)ネットワーク・コンピュータ・サービスの運用者に、その選定と実施についての概要と、実施の際の指針について取り纏めたもの。この規格には次のものが含まれている。 a)広域ネットワーク、データ伝送サービス及び共通のデータベース設備を含む、一般的インフラストラクチャーに関する指針 b)アプリケーションプログラムへのサービスを含む、船上設備に関する指針 c)アプリケーションプログラムへのサービスを含む、陸上設備に関する指針	2001.11.01	JIS F 0075:2003 (IDT)
TC8 SC11から移行	ISO 15849:2001/Amd 1:2003	同上	ISO 15849:2001追補1:2003	ISO 15849に規定されているSITP(Ship Information Technology Platform)及びLITP(Land-based Information Platform)に適用される場合のアプリケーション・プログラム・インターフェースの設計仕様書の例を附属書Aとして追加したもの。	2003.09.01	同上

TC 8	ISO/AWI 16529	Ships and marine technology -- Performance test procedures of LNG BOG re-liquefaction system on board a ship	船舶及び海洋技術—LNG BOG再液化システム	この文書は、船舶に搭載する LNG BOG 再液化システムの機械的特性を確認するために実施する性能試験の試験要件及び手順について取り纏めたもの。この試験手順は、LNG FSRU (Floating, Storage, Re-gasification Unit : 浮体式貯蔵・再ガス化設備)、LNG運搬船、LNGバンカリング船、LNG燃料船等のLNG船におけるLNG BOG再液化システムの国際規格及び行政が求める機能及び安全プロセスを文書化するために取り纏められたものである。この文書にはメーカー固有の機能及び顧客要求による追加試験や仕様については含まれない。この文書は、LNG 船の BOG 再液化システムに関する試験手順ガイドラインを提供する。	NP投票承認 2022.04.11	—
TC8	ISO 20519:2021	Ships and marine technology -- Specification for bunkering of liquefied natural gas fuelled vessels	船舶及び海洋技術—ガス燃料船のバンカリング用仕様	この国際規格は、IGCコードによりカバーされない、LNG燃料船に燃料を積むために用いるLNGバンカリング移送システムおよび設備の要件を取り纏めたもの。この標準の範囲は以下の5つの要素を含む【米国主導】。 1)ハードウェア:液体およびガスの接続(フランジ、ホース、ドライディスコネクト、ERSおよび緊急遮断(ESD1/2)) 2)バンカリングオペレーションにおける緊急事態対応の計画立案に資する、操作の手続、通信、個人保護装置(最小機能要件)の要件化。バルブ閉鎖時、メンテナンスおよび検査時の対応も考慮。LNG供給者と船のオペレータ用の要件として、IMOのIGFコードの18.2.3項で定められている燃料取り扱いマニュアルと非常時手順詳細についても定めている。 3)燃料品質、温度、密度およびネットエネルギー量の測定法および算出法。 4)作業者の訓練および資格。 5)適用可能なISO標準および地域規則へ合致させるための液化天然ガス設備の要件 ・また、Bunker safety checklistもAnnexとして掲載。 CCC 2/3/2として本件開発状況をIMOへ報告。 2017年版からの改訂点は以下のとおり【米国主導】。 ①ISO21593:2019(船のLNG燃料供給口の急速着脱機構)との整合化:dry-disconnect/connectカップリングの要件(5.5.5項)に関して、ノズルとレセプタクル間の相互接続に関するISO21593要件の追加。 ②ISO/T28で開発中のISO21903への考慮:6.2.2項のLNG移送用のコミュニケーションへのISO21903要件の追加。 ③対象組織へのマネジメントシステム要求(7.1項)の改訂	2021.12	—
TC8	ISO 20661:2020	Ships and marine technology -- Cutter suction dredger supervisory and control systems Cutter dredger supervisory and control system	船舶及び海洋技術—カッターサクシオン浚渫設備(システム)の標準化	カッターサクシオン浚渫設備(システム)の技術要件、試験方法、検査基準、表示、パッケージング、移送およびストレージなどについて取りまとめたもの。【中国主導】	2020.01	—
TC8	ISO 20662:2020	Ships and marine technology -- Hopper dredger supervisory and control systems	船舶及び海洋技術—ドラッグ浚渫設備(システム)の標準化	ドラッグ浚渫設備(システム)の技術要件、試験方法、検査基準、表示、パッケージング、移送およびストレージなどについて取りまとめたもの。【中国主導】	2020.01	—
TC8	ISO 20663:2020	Ships and marine technology -- Grab dredger supervisory and control systems	船舶及び海洋技術—グラブ(掴上げ)浚渫設備(システム)の標準化	グラブ(掴上げ)浚渫設備(システム)の技術要件、試験方法、検査基準、表示、パッケージング、移送およびストレージなどについて取りまとめたもの。【中国主導】	2020.01	—

TC8	ISO 21593:2019	Marine LNG fuel bunkering quick connect/disconnect coupling standard	船のLNG燃料供給口の急速着脱機構	<p>燃料としてLNGを用いる船舶の燃料補給に用いられるカップリングの急速着脱機構に関する要件を取り纏めたもの【中国主導】。 この標準は、以下の内容を含む。</p> <p>(1) 一般的な設置とパフォーマンスの要件。 (2) ノズルのための技術的要件。 (3) レセプタクルのための技術的要件。 (4) 標準タイプと寸法。 (5) 基本的な情報を含むカップリングへのマーク。 (6) 水圧試験、動作テスト、衝撃試験及び破断試験の要件等。</p> <p>本件は、IMO/MSC(海上安全委員会)及びCCC(貨物運送小委員会)から、船の燃料供給口のフランジへの急速着脱機構に関するISO規格開発着手がISO/TC8に要請されたことに基づく。</p> <p>TC67/SC9(液化天然ガス用設備及び装置分科委員会)でもSCOPEを全く同じにするNP投票が行われ、可決されたが、TC67議長及び幹事、TC8議長との間で対応が協議され、ダブルスタンダード化を避けるため、TC67/SC9がNPを撤回した。</p> <p>ただし、ISO/TC 67で作成されたISO/TS 18683:2015のAnnex Gで定めているカップリングとこのISO規格案で定めるカップリングとは、寸法が異なるため、互換性はない。</p>	2019.07	—
TC8	ISO 22547:2021	Ships and marine technology -- Performance test procedure for high-pressure pump in LNG Fuel Gas Supply Systems (FGSS)	船舶及び海洋技術—LNG燃料ガス供給システム (FGSS)における高圧ポンプの性能試験手順	船舶の燃料ガス供給システム (FGSS)へLNGを移送するための電気モーターにより稼動する補機に備えられる往復ポンプ等機器の性能確認のための試験手順を提案している。【韓国主導】	2021.05	—
TC8	ISO 22548:2021	Ships and marine technology -- Performance Test Procedure of Ship's LNG Fuel Gas Supply Systems (FGSS)	船舶及び海洋技術—船舶のLNG燃料ガス供給システム (FGSS)の性能試験手順	LNG燃料船の往復動内燃機関へのLNG燃料供給のために製造されるFGSSに関する圧力、流量、気温等の性能試験方法を提案している。【韓国主導】	2021.06	—
TC8	ISO 23152:2021	Ultraviolet Ballast Water Management System-- Mathematical Modeling and Calculations on Scaling -- RANS-DO Modeling	紫外線バラスト水管理システム—スケールリングに関する数学的モデリングおよび計算—RANS-DOモデリング	紫外線バラスト水管理システム (UVBWMS)のスケールリングに関するRANS-DOモデリングの計算方法を取り纏めたもの。数学的モデリングおよび計算は、システム性能に影響を与える可能性のあるパラメータがベースユニットおよびスケールユニットの間で等しくなるようにしている。スケールリングされたユニットの設計は、潜在的にベースユニットの性能要件を満たすことができるとしている。 また、本規格はUVBWMS上の離散モデルのスケールリングに適用され、ベースユニットとスケールリングユニットの組み合わせには適用されないとしている。	2021.07	—
TC8	ISO 23314-2:2021	Ballast water management systems (BWMS) - Risk assessment - Part 2: BWMS using electrolytic methods	バラスト水管理システム—リスク評価及び低減—第2部:電解質手法を用いたBWMS	ISO12100に従い電解質手法を用いたBWMSのリスク評価およびリスク低減を実施する際のガイドランス。ハザードの同定およびリスクの予測及び評価のプロセスの手順や例を示す。	2021.11	—
TC8	ISO/DIS 23780-1	Performance test procedure of continuous monitoring TRO sensor in ship use-Part 1: DPD sensors	TRO(バラスト水中の総残留オキシダント)常時監視センサの性能試験手順—第1部:DPDセンサー方式	<p>この規格は、船舶で用いられるTRO(バラスト水中の総残留オキシダント)を常時監視するセンサの性能試験手順を取り纏めたもの。</p> <p>2022年2月8日を回答期限としたDIS投票は、特段の反対なく承認された(日本は棄権回答)。</p>	DIS投票承認 2022.02.08	—

TC8	ISO/AWI 23799	Ships and marine technology -- Assessment of onboard cyber safety	船舶及び海洋技術－船上サイバー セキュリティの評価	船上でのサイバーセキュリティリスクを評価するための一般的な方法を提供する。それは無線通信と陸上ベースのシステムを除く、船上システム内のネットワーク接続に取り纏めたもの。この規格は、①用語と定義、②船上のサイバーリスク特定、③サイバー資産評価、④サイバーリスク分析基準、⑤規制措置識別、⑥評価の割り当て、から構成される【中国主導】。 NP投票承認後、未審議の状況。コロナウィルス特例による6か月間の作業休止を適用。 DIS登録期限:2022年9月19日 2022年6月28日開催のISO/TC 8/WG 4会議でNP投票で提出された各国意見が審議された。	NP投票承認 2019.03.21	—
TC8	ISO/DIS 23806	Ships and Marine Technology -- Cyber safety	船舶及び海洋技術－サイバーセーフ ティ	この規格は、リスク評価手法によるサイバー安全要件を定めたものであり、SMS(Safety Management System) (ISM Code [国際安全管理コード] で定められている要件を満たす安全管理システム)に組み込んで運用されることを想定したもの。船舶管理者に求められているSMSの策定・実施・維持の活動に併せて運用されることで、サイバー安全の継続的な改善が図られるとしている【英国主導】。 これまでの国際審議の結果、NISTフレームワークを基礎として書き直すことになっている。国内での検討はこの書き直しが終わってから行う予定であったが、NISTフレームワークへの書き直しをすることなく、CD省略投票が開始された。ISO様式にも沿っていないことから、NISTフレームワークへの書き直し及びISO様式に基づく修正を求め、日本は「反対」をした。しかし、DIS投票では、NISTフレームワークに沿った要件になっていないものの、SMSで要求されている事項を定めているだけで実害はないことから賛成の日本回答を提出した。 2022年6月28日開催のISO/TC 8/WG 4会議において、ISO内のマネジメントシステム委員会であるマネジメントシステム・タスクフォースから、マネジメントシステム規格としてISO/IEC Directives Part 1の附属書SLに準拠させる必要が指摘され、TC 8幹事とISO中央事務局で対応を協議中。	DIS投票承認 2021.11.25	—
TC8	ISO/DIS 23807	Ships and marine technology -- General requirements for the asynchronous ship-shore data communication	船舶及び海洋技術－時間に依存しない 非同期の船陸間データ伝送の一般 要件	ISO19847で定める船内データサーバー等で収集した船上搭載機器及びシステムからのデータを、非同期で陸側と通信、共有するための要件(機能要件等)を取り纏めたもの【日本主導】。 この規格は、船上データサーバーから陸上データサーバーへの船舶間データ通信に関する以下の要件を取り纏めている。 •エンドツーエンドの通信品質を測定する方法 •非同期および同期通信 •トランスポートの整合性 •トランスポートセキュリティ(暗号化、認証、承認など) •データ送信の管理(優先順位付け、ログ記録、通信事業者の認識/管理など) •通信の最適化(重複排除、圧縮、再開、多重化など) •ISO19847を含むがこれに限定されないデータ通信プロトコルへの準拠 また、この文書は以下をカバーしていない。 •データプロデューサー/コンシューマーのセキュリティ(ID管理など) •通信機器の要件 •帯域幅や遅延などの性能要件	DIS投票中 2022.09.01 〆切	—
TC8	ISO/TS 23860:2022	Ships and marine technology -- Vocabulary related to autonomous ship systems	船舶及び海洋技術－自律船舶シス テムに関する用語	この規格は、自動化システム自体及びその分類を含む、自動運航船(MASS)の自動化システムの運航過程に関連して、MASSの概念を記述するための専門用語を定義したもの【ノルウェー提案】。 この規格の開発情報をIMOに報告するため、ISOはIMO/MSC 101、102および103へISOとして文書を提出している。	2022.05	—
TC 8	ISO/PAS 24438:2020	Ships and marine technology -- Maritime education and training -- Maritime career guide	船舶及び海洋技術－海事教育及び 訓練－海事キャリアガイド	この文書は、ジェンダーによる区別なく、キャリアの拡大に寄与することを目的に、海事業界への就業に当たってどのような業務にどのような学習が必要であるのかをリストに纏めたもの。海事業界の仕事以下15の領域に区分し、各々の領域でどのような職業があり、その職に就くためにはどのようなキャリアが必要かをリスト化している。【パナマ主導】	2020.10	—

TC 8	ISO/DIS 24438	同上	同上	同上 ISO/PAS 24438のIS制定を目指した審議の再開。	DIS投票中 2022.08.09 ^〆 切	—
TC 8	ISO/AWI 24439	Ships and marine technology — Empowering women in maritime industry	船舶及び海洋技術—海事産業での女性のエンパワーメント	この文書は、船主と海事業界の意思決定者に、女性の海事業界への参加の増加を妨げる多くの障壁に関する情報を提供し、訓練の側面から企業/船の方針まで、それらの障壁を最小限に抑えるためのガイダンスを提供する。	NP投票承認 2021.11.24	—
TC 8	ISO/WD 24440	Ships and marine technology -- Maritime Education and Training -- Crew training for alternative fuel ships	船舶及び海洋技術—海事教育及び訓練—代替燃料船乗組員の訓練	この文書は、STCW要件を満たす訓練機関で用いられる、IGCコード及びIGFコードの対象となるLNG船の乗組員の他、代替燃料船の乗組員に対する訓練カリキュラムを開発する際に考慮されるべき最低要件及び要件の認証方法を取り纏めたもの【米国提案】。 コロナウィルス特例による6か月間の作業休止を適用。 2021年9月のTC8総会の結果、LNG船に限定していた名称を代替燃料船に拡大することを決議した。 DIS登録期限:2023年3月6日	NP投票承認 2020.08.28	—
TC8	ISO 28004-2:2014	Security management systems for the supply chain -- Guidelines for the implementation of ISO 28000 -- Part 2: Guidelines for adopting ISO 28000 for use in medium and small seaport operations	サプライチェーンのためのセキュリティマネジメントシステム—ISO 28000の実施のための指針—第2部: ISO 28000を中小港湾のオペレーションに適用するための指針	ISO 28000を中小港湾のオペレーションに適用するに際しての指針として自己認証基準を取り纏めるもの。	2014.02.01	—
TC8	ISO 28007-1:2015	Ships and marine technology -- Guidelines for Private Maritime Security Companies (PMSA) providing privately contracted armed security personnel (PCASP) on board ships (and pro forma contract)	船舶及び海洋技術—民間武装警備員を供給する民間海上警備会社に関する指針(及び見積り契約書)	危険海域における海賊対策として乗船させる民間警備員を供給する民間海上警備会社が具備すべき事項を取り纏めたもの。BIMCOが作成した標準契約書を附属書Aとして添付している。 ※ISO 28007として作業が開始されたが、ISO 28007-2の作成作業開始に伴いISO28007-1Iに変更	2015.04.01	—
TC8	ISO 29400:2020	Ships and marine technology -- Offshore wind energy -- Ports and marine operations	船舶及び海洋技術—洋上風力エネルギー—港湾及び海洋での作業	鋼製基礎およびコンクリート製GBS (gravity base structure)、鋼製基礎パイル、サブシーテンプレート、風力タービン発電機の構成部品である鋼製タワー、ナセル、羽根等のオフショア構造物の港湾及び海上での作業に係る要求事項及び手引きを取り纏めたもの。 この規格は、追加モジュールの搭載や構成部品の交換といった既設構造物の変更にも適用可能である。なお、この規格は海洋環境にさらされない陸上の建設作業、オフショア構造物の供用期間中の海上でのルーチン作業や潜水作業には適用できない。	2020.05	—
TC8	ISO 29404:2015	Ships and marine technology -- Offshore wind energy -- Logistics -- Supply Chain Information Flow	船舶及び海洋技術—洋上風力エネルギー—ロジスティクス—サプライチェーン情報フロー	洋上風力エネルギー施設の建設時又は保守時における構成部品のサプライヤーから建設サイトまでの物理的移動を制御するためのメッセージの内容及びフォーマットを取り纏めるもの。	2015.12.01	—
TC8	ISO 30000:2009	Ships and marine technology -- Ship recycling management systems -- Specifications for management systems for safe and environmentally sound ship recycling facilities	船舶及び海洋技術—シップリサイクルマネジメントシステム—安全で環境に優しいシップリサイクル施設のマネジメントシステムの仕様	国内基準及び国際基準に従って安全で環境に優しいシップリサイクル作業を実施するために必要な船舶のリサイクルマネジメントシステムの一連の手順、ポリシー及び目的についての要求事項を取り纏めたもの。	2009.03.15	—
TC8	ISO 30002:2012	Ships and marine technology -- Ship recycling management systems -- Guidelines for selection of ship recyclers (and pro forma contract)	船舶及び海洋技術—シップリサイクルマネジメントシステム—シップリサイクル事業者選定のための指針(及び見積り契約書)	船舶所有者に対するシップリサイクル施設選定の際の選定プロセスや契約フォーマット等の指針について取り纏めたもの。	2012.06.15	—

TC8	ISO 30003:2009	Ships and marine technology -- Ship recycling management systems -- Requirements for bodies providing audit and certification of ship recycling management	船舶及び海洋技術－シップリサイクルマネジメントシステム－シップリサイクルマネジメントシステムの監査及び認証を行う団体の要件	ISO30000の規定に沿ったシップリサイクルマネジメントシステムに係る監査及び認証業務を行う組織・団体への原則及び要求事項を取り纏めたもの。	2009.10.01.	—
TC8	ISO 30004:2012	Ships and marine technology -- Ship recycling management systems -- Guidelines for the implementation of ISO 30000	船舶及び海洋技術－シップリサイクルマネジメントシステム－ISO 30000の実施のための指針	ISO 30000の原理・原則を解説するとともに各要求項目の趣旨、典型的インプット、プロセスと典型的アウトプットについて記述し、ISO 30000の包括的な指針を取り纏めたもの。	2012.07.15.	—
TC8	ISO 30005:2012	Ships and marine technology -- Ship recycling management systems -- Information control for hazardous materials in the manufacturing chain of shipbuilding and ship operations	船舶及び海洋技術－シップリサイクルマネジメントシステム－造船の製造チェーン及び船舶運航時における有害物質の情報管理	シップリサイクル条約の規定に適合した有効かつ標準化された矛盾のない方法で有害物質に係る情報を管理、伝達、維持するための指針について取り纏めたもの。	2012.05.15.	—
TC 8	ISO/CD 30005	Ships and marine technology -- Ship recycling management -- Information control for hazardous materials in the manufacturing chain of shipbuilding and ship operations	船舶及び海洋技術－シップリサイクルマネジメント－造船の製造チェーン及び船舶運航時における有害物質の情報管理	有害物質のインベントリ開発に関するガイドラインIMO Resolution MEPC. 269(68) との整合を目的とした改訂【中国主導】。 2012年版との改訂点は上記の反映を規格全体に施したほか、ISO中央事務局指摘に基づき、マネジメントシステム規格ではないことを明確にするため、規格名称から「System」を削除している。	NP投票承認 2021.04.28	
TC8	ISO 30006:2010	Ship recycling management systems - Diagrams to show the location of hazardous materials onboard ships	シップリサイクルマネジメントシステム－船上に存在する有害物質の場所を示す図表	シップリサイクル条約で義務付けられている有害物質一覧表(インベントリ)に関するシップリサイクル業者の理解を助けることとなる船上に存在する有害物質の場所を示す図表に係る要求事項を取り纏めたもの。【日本主導】	2010.12.15.	—
TC8	ISO 30007:2010	Ships and marine technology -- Measures to prevent asbestos emission and exposure during ship recycling	船舶及び海洋技術－シップリサイクル時のアスベスト飛散と曝露防止対策	シップリサイクルの際に船舶に使用されているアスベストの発じんを抑制して、一般環境への飛散及び作業員の曝露を防ぐための有効な方法について取り纏めたもの。【日本主導】	2010.12.01.	—